



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週 報

2022～2023年度 RI会長 ジェニファー・ジョーンズ
RIテーマ イマジン ローター

クラブテーマ「楽しい例会 楽しいロータリー」

会長 小林 勝 幹事 杉山順一

第1524回 例会 2023.3.10(金)晴

司会：鈴木俊也君

ロータリーソング「我等の生業」指揮：原兄多君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 小林 勝君



先週はコロナ禍とウクライナ戦争で住宅の材料が高騰し販売価格を500万円値上げせざるをえなくなったと話しました。

ここで新たな問題です。500万値上げした事により、土地と住宅を買うのに必要な年収は500万あれば良かったのですが、700万以上でないとローンが通らなくなりました。

そして、年収が変わると生活スタイルも変わります。700万の年収を得るには夫婦共働きが必須です。これには旦那様の協力が必要です。家事・育児はできる人がやる分担が常識なのです。この考えは30代の人には理解出来るのですが、40代の旦那様はなかなか理解されない。「家事・育児は女房の仕事で、その妨げにならないなら働きに行っても良いよ。」まるで待です。

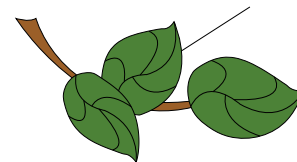
だから、40才以上の主婦は働きに行ってもパートがせいぜいなのです。共働きの主婦の悩みは何か。それは、仕事が終わってから家の事をするので就寝時間が短くなる事です。この悩みを解決するのが我々の役目です。家の中の家事動線を効率化する事により奥様の負担を軽くする、そんな住宅を考えて商品開発をしなければなりません。

次週は我社の戦略についてお話しします。

出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	31/35	88.60%	34/35	97.10%
今回	23/35	65.70%	会員総数	37名
欠 席 者 あなたが見えなくて残念でした。				

石井(司)君、伊丹君、遠藤君、大村君、篠木君、杉橋君、土屋和君、土屋巧君、野村君、三輪君、矢岸君、山口雅君
(*出席免除会員の欠席者 片野君、山本君)



スマイルボックス

中山和雄君：8日のゴルフ同好会のコンペで久しぶりに優勝させて頂きました。すばらしいパートナー(田村・土屋和・鈴木君)として恵まれたハンデのおかげでした。ありがとうございました。ただ残念なことは藤川君のがんばりがなく馬が的中しなかったことです。

仲原実圭君：妻が遠慮もなく準優勝してしまいました。スマイルします。

山口辰哉君：チャットGPTに「ロータリーのコンペで優勝するには？」と相談したら「そのみにくいウエストをあと5cm縮めたら少しは近づくでしょう」でした。

服部光弥君：コンペ、ベスグロでした！ありがとうございました。

藤川智徳君：本日の卓話、宜しくお願い致します！

高村勝則君：先日のゴルフコンペ3位になりました。スマイルします。



「9年後の自分への手紙『60歳の君へ』

2023年3月10日にロータリークラブの卓話にて

皆さんの前でこの手紙を発表している自分がいる。

今現在、身長は168.5センチ、体重は66キロくらい。ヘモグロビンA1Cは7.2くらいで、いわゆる糖尿病。飲み薬で治療中。ほかにも漢方薬も服用している。

50歳の夏に熱中症にかかりそれ以来、めまい症が未だ治らず。原因は不明。男性の更年期障害ではないかとの噂もある。50歳の年末にコロナに罹り週間ダウン。完治後、コロナ後遺症は特に無いが喉の調子だけはイマイチで歌がうまく唄えないのが残念。

趣味でゴルフを嗜むもののスコア的にはなかなか100を切れず。

やっぱりこれもコロナの影響だろうか？

また、読書は基本的に好きでビジネス関連の本は今までに相当数読んだ。でもこれからは小説を読もうと思う。数ある書物のジャンルの中で最も優秀な書物は個人的には小説だと思っている。フィクションは実に奥が深い。「罪と罰」や「カラマーゾフの兄弟」などの名作にも挑戦してみたいがあまりに長そうで未だに勇気が出ない。まずは宮部みゆきからスタートしてみよう。

また、世界地図を眺めるのが好きで学校の授業で使うくらいバカデカイ世界地図をバカ小さい部屋に飾っています。

家族の話でいうと父親は24年前に他界しており、母親は現在96歳でアリスガーデン豊町で暮らしていて、本人はそこが気に入っている。だが、体調はあまり良くない。少しでも長生きしてもらいたいものだ。子供や孫とは基本、仲良くしているものの、中には連絡を取っていない子供もいる。連絡がほしいものだが、嫌われていたら仕方がない。でも本当はなんとかしたい。これは一つの課題でも有る。

次は仕事面及びこれからについての話

これはこの手紙を書く上で実は一番書きたかった内容だ。なぜなら仕事とは人生の大半またおほとんどを費やし擧げているようなものだからだ。仕事を通じて人と出会い、色々なことを学び、幸せを感じ生活が出来る。

僕は起業してから今年で18年目に入りました。お蔭様でいつも忙しくお仕事をやらせて頂いております。これについてお深く感謝申し上げます。ただ今後のことについては僕なりに色々考えることがある。

僕の仕事はオーダーメイドにて新築の家を建てさせていただく事がメインでもちろんリフォームやリノベーション、店舗工事もやらせていただいています。建設関連の方ならお分かりになると思うが僕らのスケジュール・工程表はいつも完成から逆算して組み立てる。決してスタートからはスタートしないのである。そんな職業柄、僕はいつの間にか人生そのものも逆算して考えるようになってしまった。

たぶん自分は80歳位で死ぬだろうから残りの人生をこんな風にプランしてこんな感じで生きていこう。なんて具合に。輝く未来をいつまで

も夢見続けることはできない。そんな自分が少し寂しいですが、ただ現実問題、仕事面として考えるなら残りの人生の時間と仕事での責任の取り方については今の内から決めておかねばならない。例えどんな状況でも今日明日には、はい、辞めますと簡単にはい、かない業種でもある。なぜなら新築を引き渡した時から最低でも10年間はそれ相応の責任が残っているしそもそもお客様の立場になれば任せた会社が無くなってしまうのはありえないことだろう。そうなのだ、僕の仕事は何十年も形として残るものなのだ。何十年も形が残る仕事というのにはかなりの責任と神経を使う。自分で始めた会社だからこそ自分で仕舞う礼儀というものがそこには必要となるだろう。もちろん跡継ぎがいればそんな心配はいらないが、それは期待できない。だから僕は60歳を節目に新築を請け負うことを終わりにしてあとはアフターメンテや設計・不動産業などを残りの時間に使おうと思っている。

本音を言えば、これから色々なことに情熱をもって挑戦していきたいという自分とあまり波風立てずに現状維持で堅く生きていきたいという2人の自分がある。そんなウジウジした自分を解決する方法はないだろうかと思悩んだ挙げ句、あるひとつの事が浮かんだのだ。

この9年間でどう生きていくか、は確かに大切なことではあるが先ず、自分は一体どんな60歳になりたいのかを強く思い描くこともそれ以上に大切なことではないだろうか。ビジョンがなければ具体性なんか、生まれるはずもない。では、僕がやりたい60歳とは、一体どんな姿なのだろうか？

色々考えた末の結論は意外にも単純なことで、だけれどとても難しいこと。それは「優しい人」になることだ。「家族や仲間、友達、身近な人を今以上に大切に、いつも感謝の気持ちを持ち続けられる自分になる。」ということです。ただ、どうしたら人を大切にできるのだろうか？それも考えた。最も大切なことは相手の立場になって考えられるかどうか、又その為には何よりも想像力というものが必要となる。想像力を最大限つかって、相手が今どんな状況なのか、何が必要なのか自分自身、今何をすべきか？そしてそれは意味があることなのかを理解しつつも公平なもの見方が出来る人でありたい。

ちなみに、人間が究極の幸福を感じる方法とはお金でも権力や地位、名声ではなく実は人様のお役にたてること、らしいですがそのお役立てこそが、結果人と人との「絆」となれば、理想的です。それが、あくまで無理なく自然体でできる自分になればいい、と思っています。

そして最後のジャッジとして自分の子供たちに恥じることのない親父の背中を見せていけたら最高です。

結局、僕には大谷君ほどのメソッドは確立できないかもしれないけれど自分らしく、そして人に優しくできる、そんな60歳になろうと思います。

さて、時が過ぎ60歳の時の藤川君、その後いかがお過ごしでしょうか？今は楽しい時間をすごしていますか？ゴルフのスコアアベレージも100を切れるようになったか？60歳の君はきっと今の自分より、穏やかで充実した日々を送っていることでしょう。友達や応援してくれる人も増え感謝の気持ちでいっぱいかもしれません。まさか、疲れきって身も心もスタボロなんてことはないでしょう？もしもお疲れでしたら、自分自身を労わってあげてください。

今までよく頑張りました。そんな自分に有難う。お疲れ様。これからは今ぼんやり描いている人生の第2章のドラマを実現し楽しんでいてください。その時まで今の自分が頑張ります。これからも健康で健全にお過ごしください。ずっと応援しています。

60歳の君へ 51歳の自分より 以上